

タチフロウ しなのき科—モイワボダイジュ すみ
れ科—エゾノタチツボスミレ、ヒゴスミレ あかばな科—ミズタ
マソウ セリ科—アマニュウ、ノダケ、ヤマゼリ
もくせい科 ハシドイ しそ科—キセウタ、セキヤ
ノアキチョウジ、ヒキオコシ、シナノアキギリ、ヤ
マハッカ ごまのはぐさ科—コシオガマ、トモエシ

オガマ、ミヤマママコナ、ヤマトラノオ ききょう
科—シデシヤジン、フクシマシヤジン きく科—イ
ヌヨモギ、イワイシチン、セイタカトウヒレン、ミ
ヤマアキノノゲシ、モリアサミ、ナンブアザミ、ナ
ガバノコウヤボウキ、ヤハズハハコ いね科—カリ
ヤスモドキ、ハネガヤ らん科—アツモリソウ

【秋季合宿調査報告】

小菅神社のキタゴヨウ林

伊 藤 静 夫

昭和52年10月1、2日の両日、植物研究会の採集
会が飯山市小菅神社を中心とした地域で行なわれた。

参加された会員は丸山、山越、犬飼、望月、清沢、
松田、和田の諸氏と幹事の伊藤であった。

小菅神社は飯山市の瑞穂地区の小菅にあり、奥社
本殿に通じる参道の両側には天然記念物の杉の大木
が美しい杉並木を形成している。樹種は裏日本型の
クマスギである。かつては奥社本殿までうっそうた
る杉並木であったが、風雪の災害によって倒れたり
害虫等の被害で枯れてしまい、現在では入口の鳥居
から約600mの所までが杉並木である。そこから上
は樹令の若い杉が点在し、往時をしのばせる杉の切
跡がある。奥社本殿は県の重要文化財で標高900m
の所にある。

今回の採集会の目的は、奥社の裏山に分布するキ
タゴヨウ林の調査と付近帯のフロラを調べることで
あった。

調査地域は長野県の北部、毛無山(1650m)の山
すそにあたり、千曲川の東側に位置する。県下の植
物区系からすれば裏日本要素の種が分布するところ
である。

10月1日 午後3時までに集合することになって
いたが、勤務を終えてかけつける者や松本や名古屋
市からの参加があり、全員がそろったのは夜8時ご
ろであった。そのため、採集会は行われず、夜地元
の丸山利雄先生から飯水地区の植物分布や先生が作
った標本についての学習会が開かれた。先生のたゆ
まない研究活動には頭の下る思いであった。

10月2日、快晴で絶好の採集日和であった。目的
地に出発する前に丸山先生の案内で、野沢温泉の名
物野沢菜の発祥地やつつじ山をまわり、ユキツバキ
の見事な群落を観察することができた。一行は途中
で参加された和田氏を含めて、北竜湖を回って小菅
神社へと向かった。以下、出現した種について記載
する。

調査番号	1	2	オオバクロモジ	+2
調査年月日	'78 10.2	10.2	ヒメアオキ	+ +2
海拔高(m)	900	900	ヒトツバカエデ	+ +
方位・傾斜	S15° NW25°		アズキナシ	+
調査面積(m ²)	400	400	コハウチワカエデ	1.2
高木第一層	24/50	23/40	ヤマグルマ	+
			ヤマツツジ	1.2
			ハナヒリノキ	+
高木第二層	10/10	10/80	ハイイヌツゲ	+
			チャボガヤ	+
			コミネカエデ	+
低木層	5/90	2/60	ヤマウルシ	+
			ハイイヌガヤ	+
草本層	0.3/20	0.3/40	ムラサキヤシオ	+
出現種数	33	42	コマユミ	+
			ツノハシバミ	+
〔高木第一層〕			アオダモ	+
キタゴヨウ	3.4	3.4	コシアブラ	+
ブナ	1.2		アラゲアオダモ	+
ミズナラ	1.2		〔草本層〕	
〔高木第二層〕			チゴユリ	+ +2
ミズナラ	2.2	+	カンヌゲ	+ +
ブナ		5.5	スノキ	1.2 +
ハウチワカエデ		1.2	ツルマサキ	+ +
タムシバ		+	ツルリンドウ	+ +
コハウチワカエデ		+	ツルアリドウシ	+ +
オオヤマザクラ		+	ツルデマリ	+
〔低木層〕			コハウチワカエデ	+
ミズナラ	4.5		アオダモ	+
ハウチワカエデ	1.2	+	ミズナラ	+
マルバマンサク	1.2	+	ノリウツギ	+
タムシバ	+	1.2	サワダツ	+
ブナ	+	+	シンガシラ	+
エゾユズリハ	+2	1.2	エゾユズリハ	+
サイゴクミツバツツジ	+2	+2	オクモミジハグマ	+
ミヤマガマズミ	+	+	ウリノキ	+
リョウブ	+	+	ヒメモチ	+
ホツツジ	+		ホツツジ	+
オオカメノキ		2.3		

エゾヒガン（野沢温泉）、シダレザクラ、小菅神社の参道に入ってソバカズラ、イヌタデ、カヤ、アカザ、ヤブガラシ、ツルデマリ、チャボガヤ（小群落を形成）、ヨメナ、コウヤワラビ、クサソテツ、イノコズナ、ナンバンカラムシ、サラシナショウマ、コウゾ、キツリフネ、サルトリイバラ、シャガ、ヒメアオキ、クズ、チカラシバ、オオバコ、クマヤナギ、ツルツゲ、ノブドウ、クジャクシダ、ニワトコ、ワラビ、ゲンノショウコ、ヤブレガサ、ウリノキ、タチシオデ、ツタウルシ、ツルウメモドキ、ハナйкаダ、カラマツソウ、イカリソウ、ムカゴイラクサ、ミゾシダ、アブラチャン、ヌスビトハギ、ミヤマイラクサ、チヂミザサ、ヤクシソウ、イヌワラビ、ホウノキ、ハナйкаダ、コウモリカズラ、ウバミソウ、ノブキ、リョウメンシダ、シノブカグマ、ホウチャクソウ、キケマン、ヤマアジサイ、ウバユリ、ツリフネソウ、コブナグサ、サトメシダ、トチノキ、ハウチワカエデ、モミジイチゴ、オオカメノキ、オオバクロモジ、マルバマンサク、ムラサキヤシオ、ツノハシバミ、コマユミ、サイゴクミツバツツジ、スノキ、アオダモ、ホツツジ、ノリウツギ、アズキナシ、オクモミジハグマ、ヒヨドリジョウゴ、ミヤマホウソ、エゾアジサイ、イヌシデ、オオバショリマ、サワシバ、奥社の小さな沢には白い花をつけた

ダイモンジソウの群落、サワダツ、ケトチノキ、シラネウラボシ、オシダ、サカゲイノデ、ナンブアザミ、タイアザミ、マツカゼソウ、タイミンガサ等が分布する。

昼食後は奥社の裏側の西尾根に発達するキタゴヨウ林を調査することになった。松田、和田、伊藤によって植生調査が行われた。

調査結果は前頁の表の通りである。ブナ・マルバサンサク群集の下位単位のキタゴヨウ群落として位置づけられよう。

帰路はもと来た参道を下った。宿泊について御心配して下さった外様小学校の高橋勸先生にお礼を申し上げたい。



尾根に発達するキタゴヨウ林

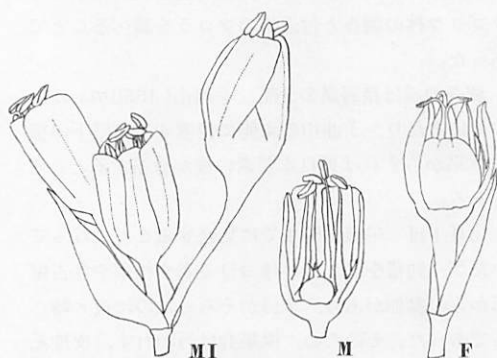
〔植物ニュース〕28. ヒメニラ *Allium monanthum* Maxim.

ヒメニラは1個まれに2個の花をつけるといわれどんな図鑑にもそのように記され、私も、自らの観察や標本の検定結果に基づいて「万有百科大辞典 植物」（小学館）にもその旨を記した。

ところが、ごく最近、岡谷の今井さんに諏訪地方には3～7個の花をつけるヒメニラは珍らしくないからと誘われ、富士見町の釜無川対岸大武川地籍および諏訪神社上社附近の2個所で、開花中の集団を観察することができた。ともに、標高約800m、北向きないし東北向きの斜面である。

大武川集団は、石灰岩混りの雑木林とその周辺にあった。1個体当りの花数は1～7個であったが、数百株のうち6個または7個の花をつけた個体は数えるほどであり、多くは2個または3個であった。上社集団は桑畑中にあり、1株当りの花数は1～4個であったが、4個のものは比較的少なかった。

ヒメニラは雌雄異株である。雌花には発達した雌しべの外に0～4個の雄しべがあるが、雄しべは明らかに花被より短かく、花糸は細い。雄花は発達し



ヒメニラの花 ×4
MI:雄株の花序 M:雄花 F:雌花

た6本の雄しべの外に退化した雌しべをもつ。この場合、花柱分枝はないか、非常に短くなっている。大武川では、雌株は花数1,2個に限られていたが、上社では1～3個の雌花をつける個体が多くみられた。ヒメニラの花数・性別・鱗茎の大きさ・稔性などの相互関係は、今後精査する必要がある。貴重な情報を下さった今井氏に深謝する。（清水建美）